

MUSEUMS FOR GREATER OSAKA

大阪ブランドを世界に打ち出す「場」を創る

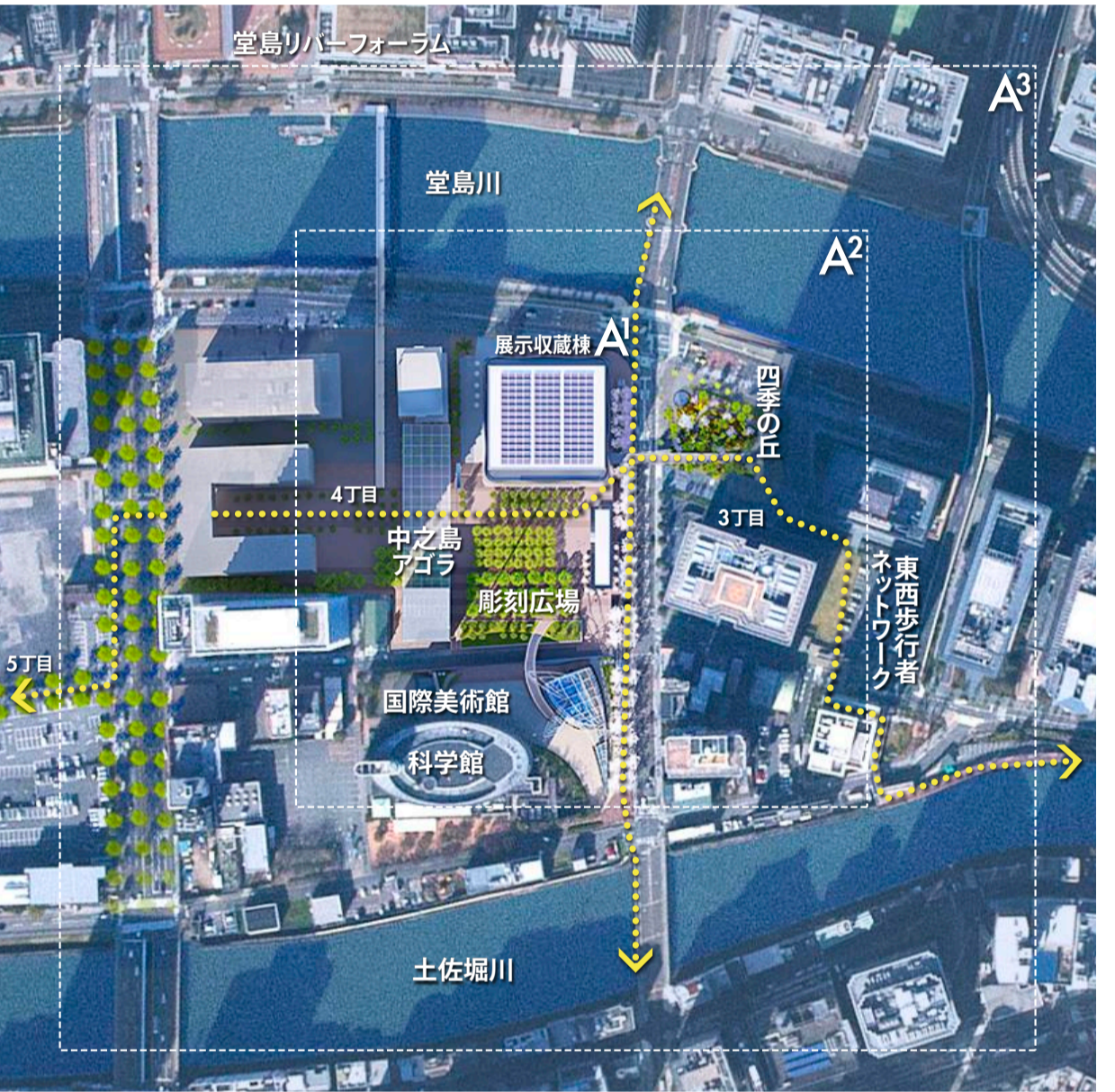
大阪新美術館の大きな目標は、3つの「場」*を創り出すことによってさまざまな連携と交流を織り込み、大阪市がロンドン、パリ、ニューヨークに伍する文化都市となることである。「アートが動くまち。アートが動かす大阪。」



配置計画 敷地全体に100年を見据えたパブリックスペースを創る

- 展示収蔵棟を敷地いっぱい以上に寄せて建てる。4丁目の核となる「彫刻広場」を創り、国際美術館、科学館、西に誘致される「中之島アゴラ」と、この新美術館をつなぐ。
- 遺構上部に展示収蔵棟を浮上させ、その下に多彩なイベントが開催可能な「舟入広場」を創り出す。
- 「彫刻広場」を、3丁目の「四季の丘」から、4丁目の「中之島アゴラ」を経て、5丁目へと延びゆく東西歩行者ネットワークの要とする。

- *大阪新美術館が創り出す3つの「場」
- A¹—世界に誇るコレクションを展示収蔵する「場」
 - A²—3つのミュージアム群を連携させる「場」
 - A³—中之島全体の相乗効果で発信力を強める「場」



外構計画 季節を彩る「彫刻広場」の緑と南北の川をつなぐ桜並木

- 国際美術館と展示収蔵棟の間に85mの離隔をとり、「中之島アゴラ」ともつながる5,300㎡のオープンスペース「彫刻広場」を生み出す。高木105本の木漏れ日の下で散策を楽しめる。
- 「彫刻広場」を3つミュージアムに囲まれた中庭と位置づけ、新美術館と国際美術館、科学館の連携を強める。
- 「彫刻広場」に面してレストランとテイクアウトできるカフェを設置。テラス席に加え、緑陰のベンチが500人分の客席となる。
- 敷地東側には南北230mの桜の通り抜けを配置する。二列並木が堂島川と土佐堀川を結び、四季の丘と「彫刻広場」の広がりをつなぐ。
- リバーフロントを臨む展示収蔵棟から、北は堂島川、東は四季の丘、南は「彫刻広場」へのパノラマ眺望が得られる。全方位に新美術館の存在を主張できる建物配置。



国際美術館、科学館、中之島アゴラをつなぐ、4丁目の核となる「彫刻広場」



舟入の歴史を包み込み、未来へ力強く湧き出て、大阪ブランドを世界に打ち出す新美術館

意匠計画 周辺と調和し共鳴する、四方正面の外観

- 展示収蔵棟外壁の金属パイプは国際美術館の造形と呼应する。
- 「なみはや」の「浪」を想起させる外観は、新美術館から情報や文化の波を発信する様子を表す。
- 「彫刻広場」下の基壇デザインが国際美術館、科学館との連続感を生み出す。



四季折々の木漏れ日の下でアートを楽しめるパブリックスペース



土佐堀川と堂島川をつなぐ230mの桜並木



多機能天井からのプロジェクションによる舟入遺構の再現イベント



外部空間を活かした屋外展示イベント



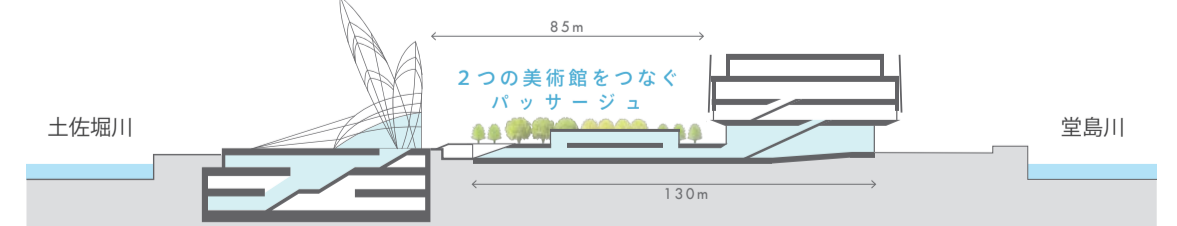
「光の饗宴」の季節にはアイススケートリンクとして大阪の新名所が生まれる

美術館の枠を超えた「舟入広場」

- 3,200㎡、天井高さ10.8mの「舟入広場」は、イベント用吊物に対応できる多機能天井仕様とする。
- PFI事業者が、大型インスタレーションやプロジェクションマッピングなどを使った多彩な収益事業を一年を通じて企画・運営できる。
- 展覧会の入場待ち行列ができて、パッサージュの外に延びても、「舟入広場」でストレスなく待つことができる。
- 展示収蔵棟は大阪大学中之島センターと、16mの間隔をあけて、「舟入広場」西側の柱を無くし、「中之島アゴラ」までを面的につなげる。
- 将来「舟入広場」に命名権を導入することも可能。

最高クラスのホワイトキューブ

- 企画・コレクション展示室の移動展示壁は幅5.4mを標準とする。ジョイント目地の少ない展示壁面が理想的なホワイトキューブを創る。
- 展示ロビーは展示室と同じ高さのグリッド天井をシームレスに連続させ、ロビーを含めた展覧会計画が可能。
- 展示収蔵棟をサービス施設から独立させ、美術品の安全確保、防虫対策に万全を期し、公開承認施設、美術品保障制度の要件を満たす。



テーマ展示室 展示ロビーにもグリッド天井が連続し、一体的に利用できる

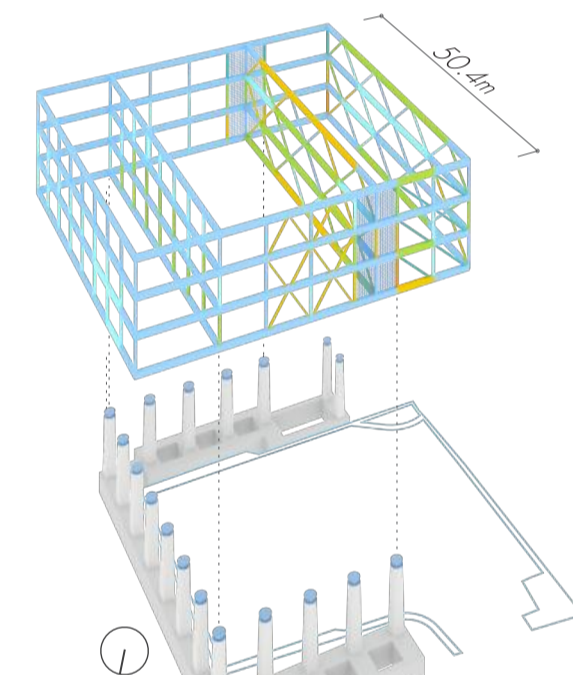


にぎわいを連続させるパッサージュ

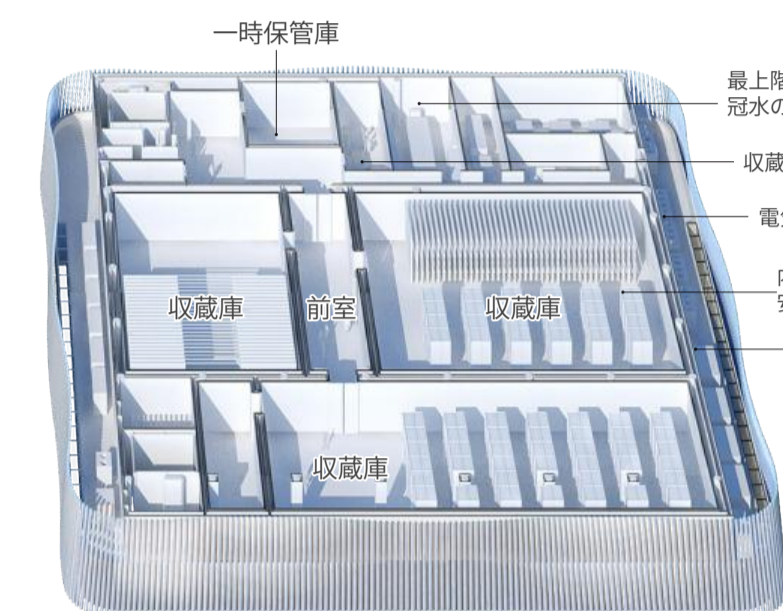
- 桜並木に沿い、敷地南北130mを貫く、文字通りのパッサージュを創る。
- パッサージュにはレストランやミュージアムショップのほか、気軽に立ち寄れるストリートギャラリーやメディアラウンジを設け、展示休館日にもオープン可能。
- パッサージュに面する諸室はガラス張りとする。カジュアルなしつらえて、美術館に興味のある人もない人も楽しめる。
- 100人乗りエレベータ「ティクオフ・ギャラリー」が来館者を展示フロアへと導く。

構造計画 展示収蔵棟のみを免震化

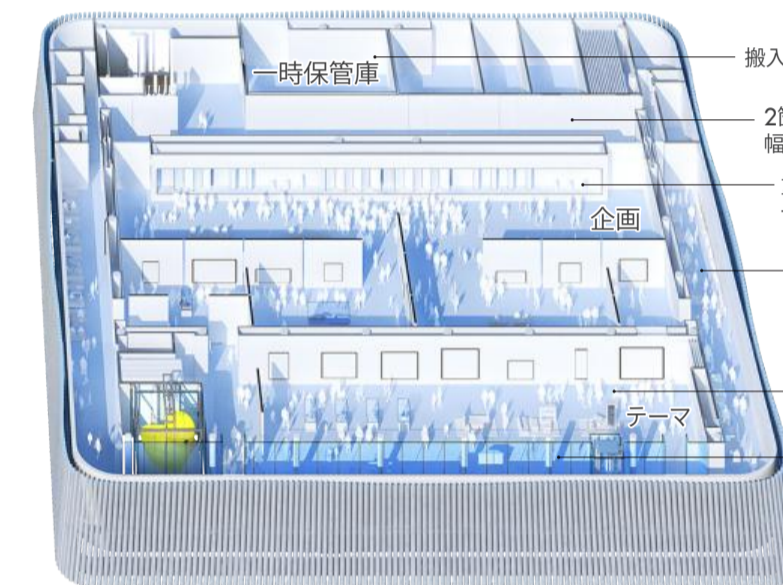
- 高床式の展示収蔵棟のみを免震化し、美術品と貴重資料を災害から守る。
- 展示収蔵棟の基礎は、舟入遺構の外側だけに造り、山留には低振動・低騒音シートパイルを使用して、確実に遺構を守る。
- 免震の必要がない「彫刻広場」下は、高木を柱位置に合わせ、合理的なスパンのローコストな鉄骨造とする。



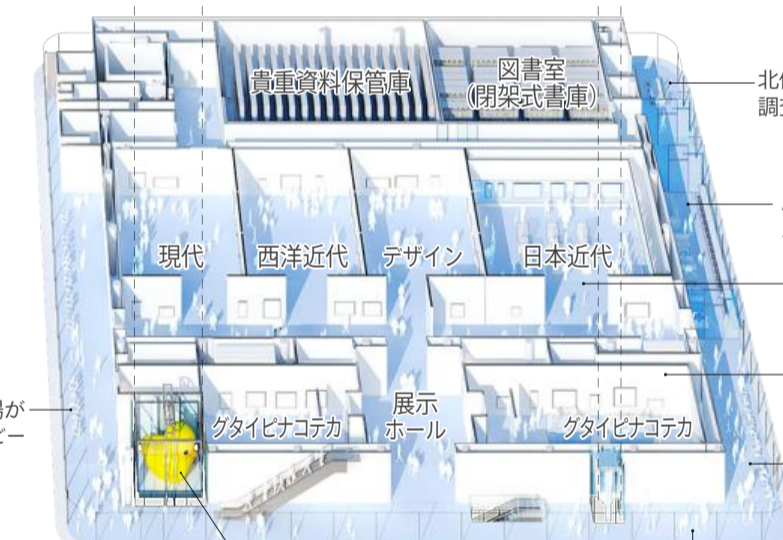
舟入遺構を避けた基礎構造と展示収蔵棟大スパン構造



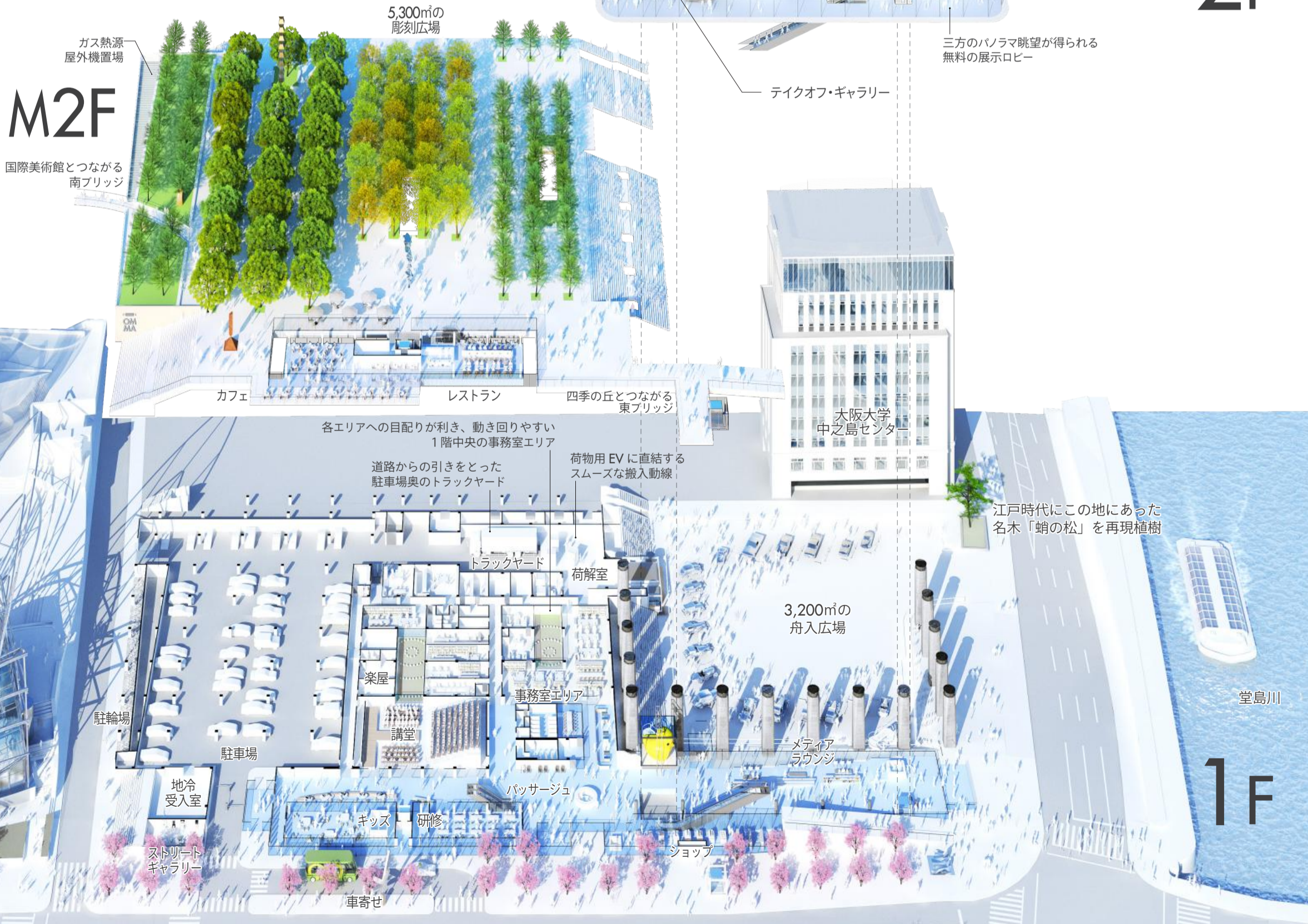
4F



3F



2F



1F

南北を貫くパッサージュが新美術館と街をつなぐ。立ち寄りやすい通り抜け空間に人が集い、アートとの出会いをきっかけに新たな美術館ファンが増えてゆく。

環境計画 自然エネルギーを活かすZEB*美術館を目指す

- 展示収蔵棟を支える鉄筋コンクリート杭(地下40m)にポリエチレン管を打ち込み、川に挟まれた豊富な地下水を流した地中熱利用を図る。
- パッサージュエリアの床に躯体蓄熱放射冷暖房を導入し、快適性と省エネを両立する。
- 太陽光パネル50kWを設置し、将来のZEB化に向けて200kWまで増設できるスペースを準備する。
- 「彫刻広場」から「四季の丘」へ、南西から北東への卓越風が通りぬける。
- 「彫刻広場」の土厚確保と大規模緑化により、ヒートアイランドを抑制する。
- LED照明、高効率熱源機器の導入ほか、省エネ創エネ対策により、ZEB美術館を目指す。(3枚目パネル参照)

*Zero Energy Building

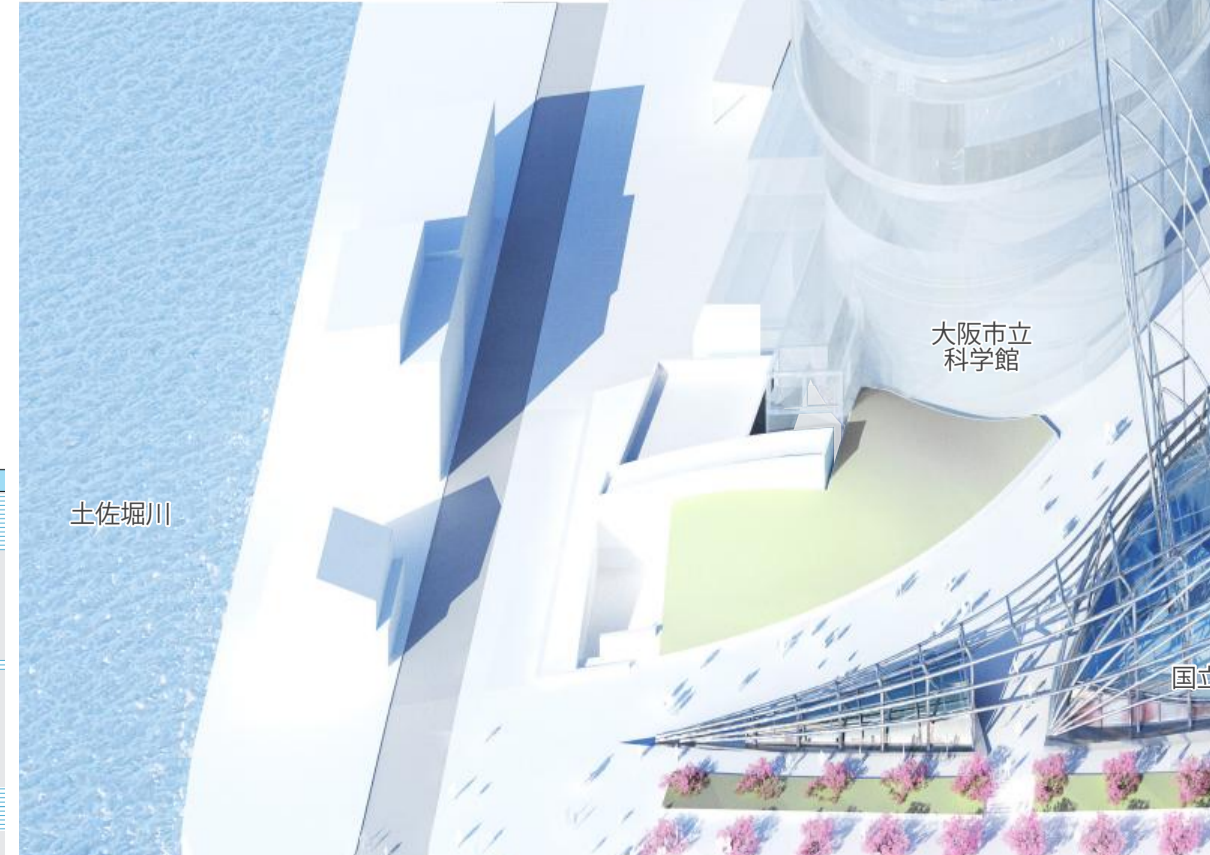
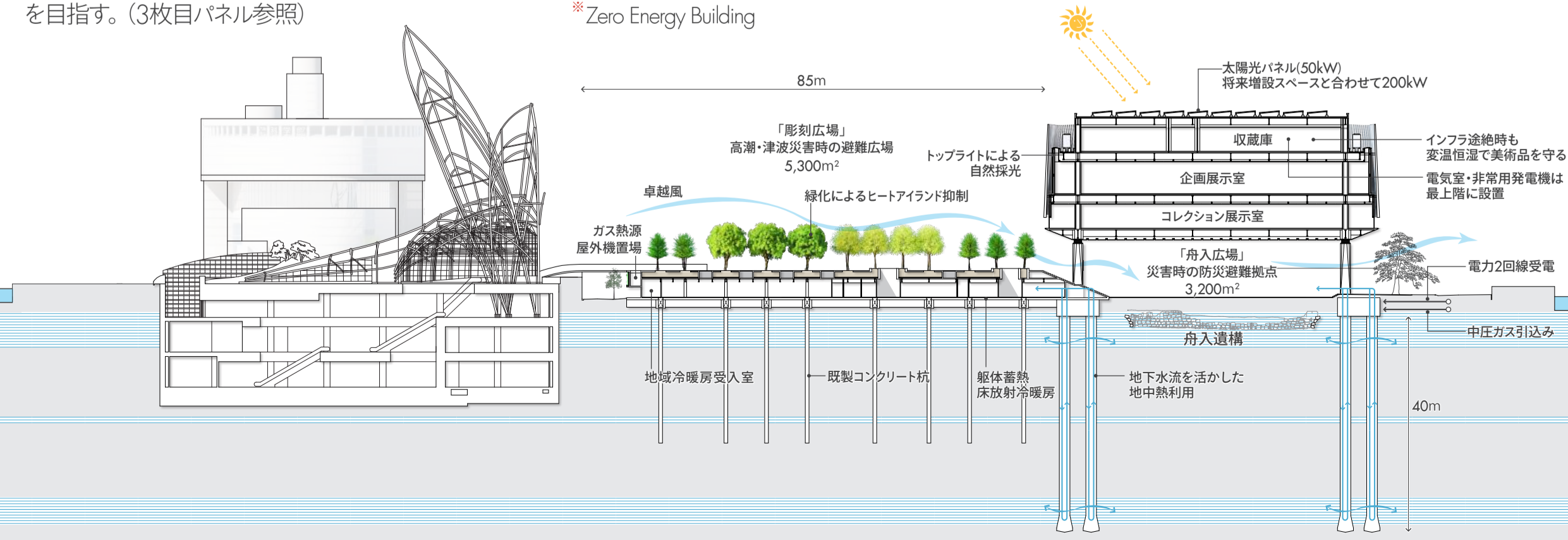
設備計画 省エネ環境インフラを活かし、ライフサイクルコストを低減

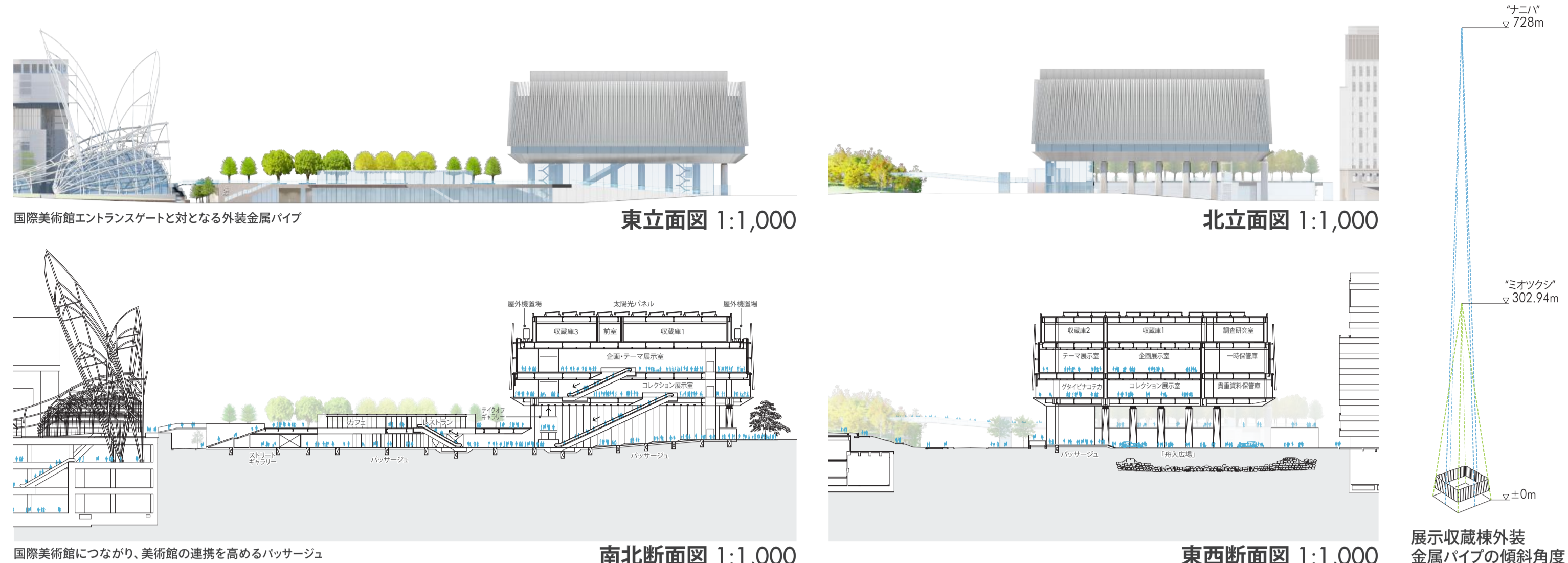
- ヒートアイランド対策、エネルギーの面的利用を目的に、河川水を使った既設地域冷暖房(地冷)施設からの熱供給を受け入れる。
- 地冷引込みは四季の丘からの歩行者デッキ(東ブリッジ)を利用した上空配管により、地下埋設配管と比べて初期投資を抑制し、料金の低減化を図る。
- 熱源を地冷のみに頼るのではなく、地冷:ガス:電気の比率が5:4:1の最適な熱源構成によって、テマンドを抑制することでランニングコストを低減する。建物全体で約10%ライフサイクルコストを削減。(3枚目パネル参照)
- ガス熱源機器は展示収蔵棟と離して配置し、展示収蔵棟にはガス配管を引き込まない計画とする。

災害対策 建物配置が生み出す避難広場と、美術館に最適なBCP*

- 「舟入広場」のピロティ空間は、雨をしのげる防災避難拠点となる。OP+7.5レベルの「彫刻広場」は高潮・津波災害時の避難広場とすることができる。150mの防災備蓄倉庫を大階段下に設置する。
- 展示収蔵諸室の空調は自己熱源でまかなえる計画とし、72時間運転可能な非常用発電機とあわせて災害時にも空調運転を継続できる。
- 中圧ガス、電力2回線受電により、災害に強く、早期に復旧できる引込み計画とする。
- 展示収蔵棟は高断熱仕様とし、空調ダウン時にも温度変化を緩やかにする。収蔵庫の内壁は、調湿パネル仕上げとして、湿度を一定に保ち、長期間インフラ途絶時にも「変温恒湿」で美術品を守る。

*Business Continuity Plan





計画概要

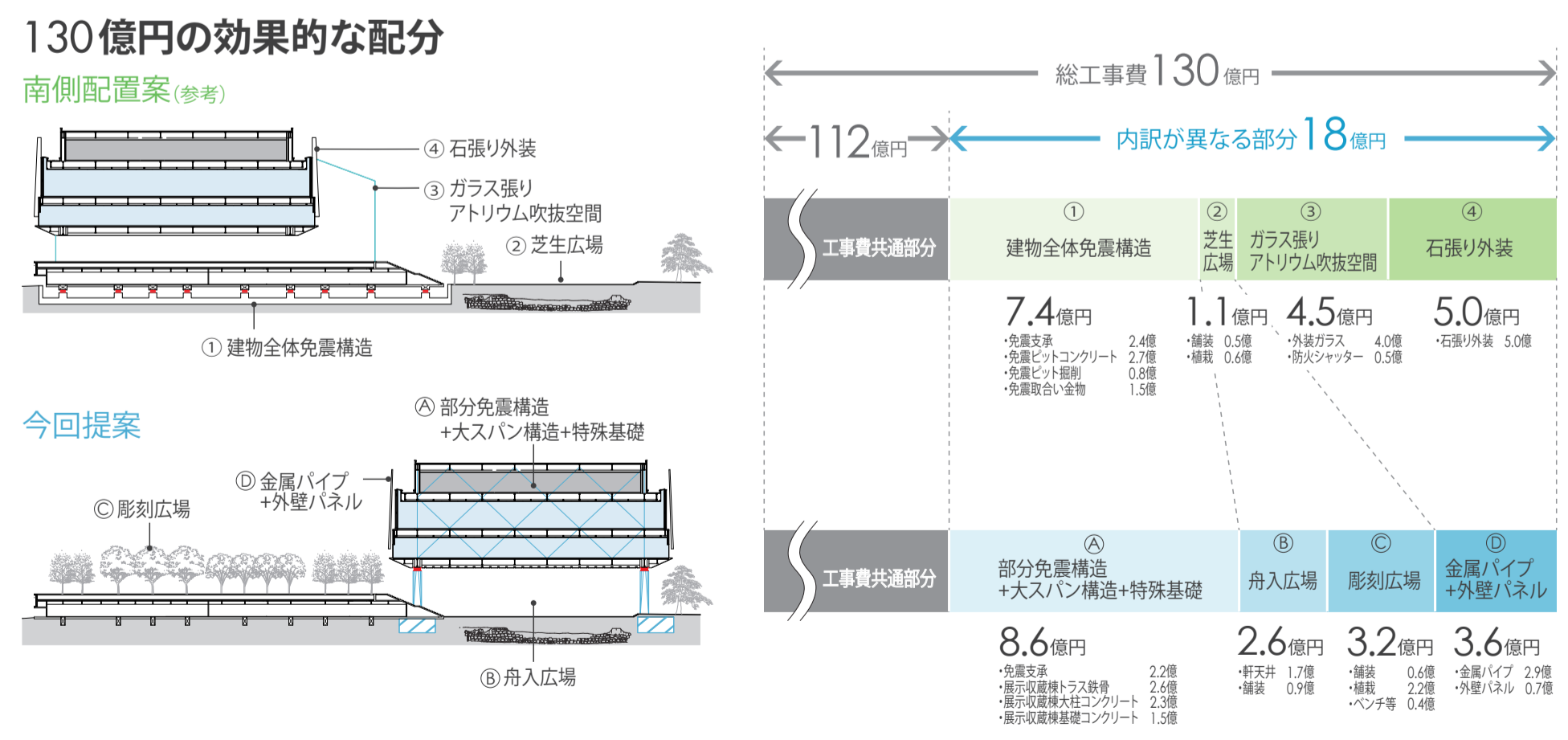
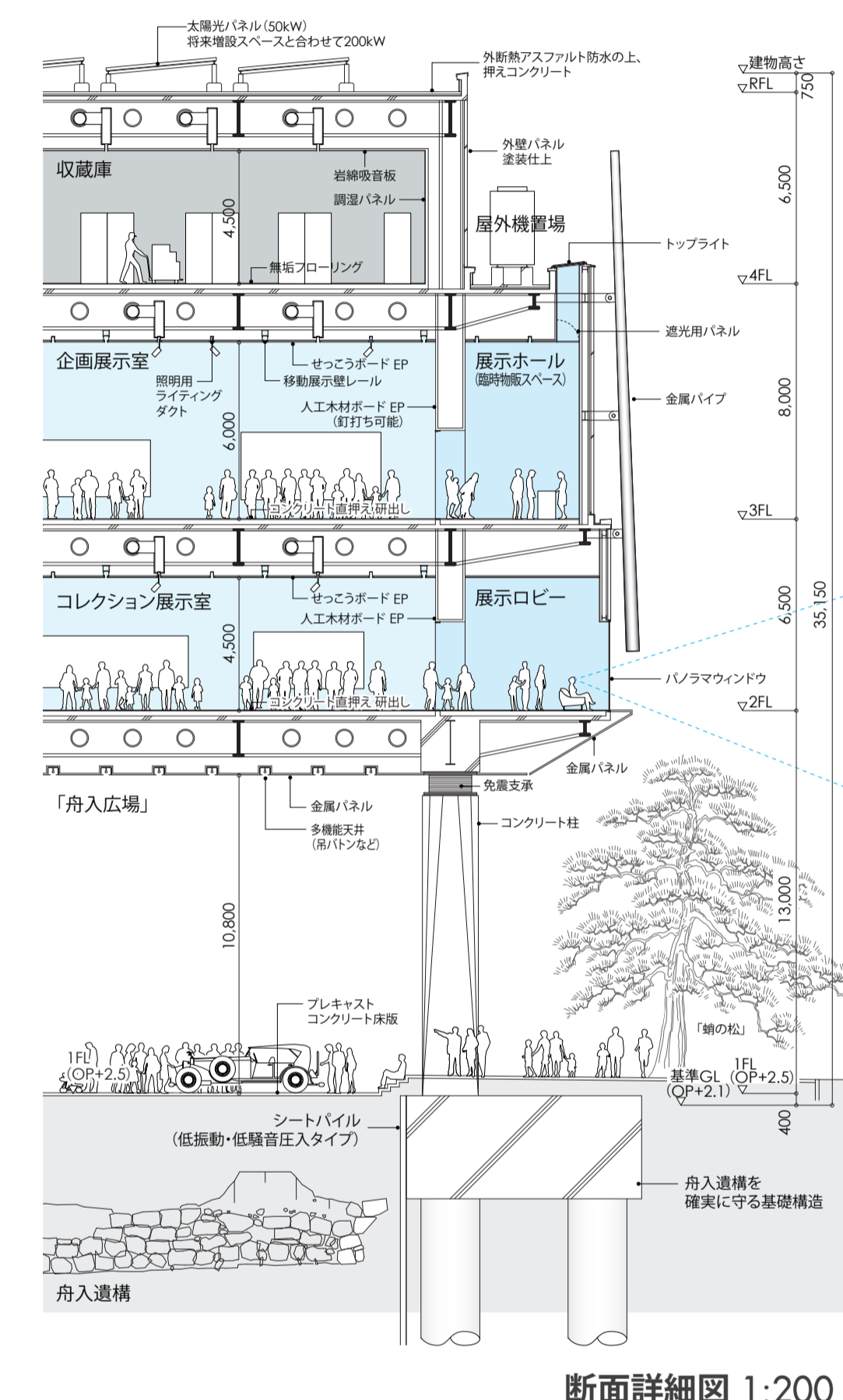
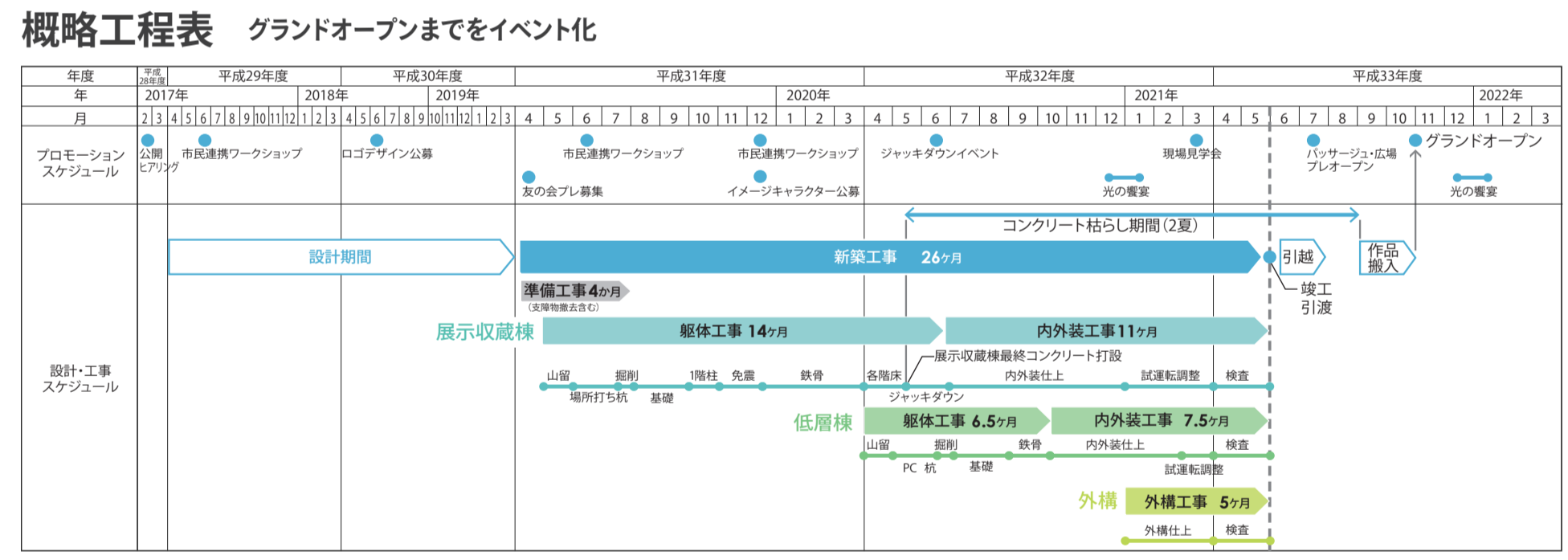
単位:m

建築面積	10,450
延床面積	美術館 4F 3,120
	3F 3,730
	2F 3,760
	M2F - 340
	1F 4,390
	小計 15,000
合計	17,990
構造・階数	S造、一部RC造 地上4階
階高	4F 6,500mm
	3F 8,000mm
	2F 6,500mm
	1F 5,000mm
最高高さ	基準GL+35.150mm(基準GL+OP+2.1)
駐車台数	来館者用 80台 管理用 2台 搬入用 2台

主要部分 面積表

単位:m

	計画案	要求面積	計画案	要求面積
展示エリア	3,560	3,400	管理エリア	5,085
企画展示室	1,200	1,200	事務室関連	250
展示ロビー	130	-	展示ロビー	250
コレクション展示室	2,000	2,000	館長室	40
展示ロビー	230	-	応接室	30
コミュニケーションエリア	2,185	2,100	更衣室	30
バヤージュ	1,010	1,000	会議室	35
講堂	500	500	展示準備室	60
研修室	125	130	研究資料室(3室)	40x3
キッズスペース	115	100	展示作業室	510
図書室	330	330	展示作業倉庫	50
その他諸室	105	-	貴重資料保管庫	300
			トラックヤード	215
			荷解室	170
			その他諸室	3,275



概算工事費

項目	数量	金額(千円)	備考
直捷工事費	1式	10,134,000	
建築工事費	1式	7,574,000	
本体		6,710,000	
直接仮設工事		161,000	
土工事		124,000	
地業工事		667,000	
躯体工事		2,763,000	
内外装工事		2,995,000	
外構		564,000	
連絡ブリッジ(道路上空部分)		300,000	東・南ブリッジ
電気設備工事	1式	910,000	
機械設備工事	1式	1,870,000	
空調設備工事		870,000	
衛生設備工事		470,000	
昇降機設備工事	1式	370,000	
諸経費(共済仮設費・現場管理費・一般管理費)		1,810,000	17.67%
合計(工事費)		11,944,000	
消費税等相当額		955,520	8%
地中埋設物の撤去費(諸経費・税込)		100,000	
総合計(工事費)		12,999,520	

